

災害図上訓練 (DIG)

1. DIGとは？

D = Disaster (災害)

I = Imagination (イメージする)

G = Game (訓練)

地図を囲んで皆で災害をイメージして、地域の課題を発見し災害対応や事前の対策などを検討する手法である。

2. DIGの効果.効能

1. 災害を知る = 自分の地域で起こりうる災害の様相を認識する。

「どこで、どのくらいの規模で、どういう災害の発生が予想されるのか。」

2. 街を知る。 = 街の構造、危険な場所、建物等。

「自然と地域を見つめなおし、自分達の住む街がどのような街なのか。」

3. 人を知る。 = いざと言う時に頼りになる人。

「医者、看護師、介護士、消防OB等々」

反面近所に手助けがいる人はいないか (要援護者)

街を見る目、災害を考える視点が違ってきます。

人的な要素の書き込み作業は、街の「財産目録」をつくること
になります。「ワイワイ、ガヤガヤ」と皆で災害救援について熱
く語り合う内に連帯感が生まれ、信頼関係が生まれてきます。

4. テーマの決定

1. 目的、目標を決定します。

「対象とする災害は何か?」「対象とする地域はどこか?」

「何のためにDIGをするのか?」

共通の目標を設定しましょう。

南海トラフの地震発生。 冬の朝 6.00

最大震度 5強

津波警報 高い津波(3m)

5. 進行ルール

- ・楽しく自由に、且つ活発に活意見交換出来る雰囲気をお互いに
つくるよう、意識することがルールと言えはルールです。
- ・その意味では相手の意見をまず聞くと言う事が大切です。
異論がある時は、避難したり否定しないで代案を提示する。
- ・知り得た個人情報是他言しない。

★地図を囲んでD i Gを始めます

1. 自然条件の確認。

- ・ 主要道路、幅 3 m以上 (緑色)
- ・ 路地、狭い道路 (紫色)
- ・ 川、池、ため池、用水路等 (水色)
- ・ 広場、公園、オープンスペース
(学校、神社、お寺、空き地等) (橙色)

2. 「人、施設」を確認する。

- ・ 転倒、倒壊、流出等、危険と思われる施設。(赤丸)
「橋、階段、自動販売機、電柱、ブロック塀等。
古い建物 (昭和 5 6 年以前に建てられた家屋)」
- ・ 災害時役立つ施設、設備。(緑丸)
「消火栓、古井戸、商店、公民館、建設会社、G S 等」
- ・ 災害時要援護者 (黄色丸)
一人暮らし高齢者、障害者、妊婦、乳幼児とその母親
- ・ 役立つ人材、組織 (青丸)
自治会、防災会、民生児童委員、看護師、福祉士等

3. 地震、津波のとき危険な場所

- ・津波の浸水範囲 水色の斜線
- ・がけ崩れ危険箇所 橙色の斜線

4. 台風、大雨のとき危険な場所

- ・洪水浸水範囲 水色の点々
- ・土砂災害危険箇所 黄色の点々

★避難路を決めます。

避難場所までの道を赤いマジックで引いて下さい。

5. リスクや課題を整理する。

出来あがった地図を囲んで、課題を出し合い前向きに、自由に意見交換して共有する。

- ① 地域の特徴を把握する。
- ② 危険箇所は全員で認識する。
- ③ 活用できる、人、モノを整理する。

付箋紙に1項目ずつ気をついた事を書いて下さい。

この地域の特徴、弱み、強みを発表して下さい。

6. まとめ

1. 明らかに成った弱点に対して、実際にどのような事前対策や災害時の対応をしていけばいいのかを検討する。

ハード面 (被害を出さない為にどうするのか?)

(例) 家具・器具の固定等

ソフト面 (出てしまった被害をどう軽減するのか?)

(例) 誰が、誰を助けるのかを組織化

2. 避難時に、しておかなければならないこと。

電源スイッチの断 ガス元栓の断

3. 平常時に、非常持ち出し品の確認

何日間か家に帰れないことを考えて準備

「居安思危」

「安きにありて、危うきを思う」

「備えあれば、憂いなし」

「備え」ていれば「憂い」が無くなるのは当然

その「備え」は大丈夫なのか?

安きにある今、その危うきを考えて行くことが大切なのです。